

より高度な技術の習得

に向けて

『安平町ほほえみづくり事業』の助成を受けて先進地を視察研修

追分名人会のプロフィール

平成4年3月に廃校となった本安平小学校を拠点に木彫りづくりを始める。フクロウなどの置物を制作し、地域住民を巻き込んだ活動を行っている。

会員は現在16名。

事務局 鎌野 利博さん ☎ 25-3516

木彫り製作を行っている「名人会」の会員が9月27日から29日まで2泊3日で道東地区の作業現場などを視察してきました。今回の研修は、町のほほえみづくり事業を有効に活用し地域振興も視野に入れた内容でした。参加者は12名。帰町後は、「木工教室」などを計画しており、安平町での木彫りの新たな作品づくりが期待されます。

視察先の選定

名人会の作品は、えんじゅの木肌を利用した制作が中心で、フクロウ作りなどには適している樹種です。

平成4年9月に設立した名人会ですが、会員の技量も向上してきました。木彫りは木の種類により加工の仕方が違い使用する道具も異なります。新技術の取得と新しい分野への開拓を視野に入れ、視察場所は道東・道北地方を計画



角を丸く削った手作りの木製のおもちゃ(木夢館)

そこは木工製品や加工技術が優れた地区です。

そこで3日間の研修日程を考慮しながら、滝上木質バイオマス生産組合(滝上町)、木夢館(西興部村)、木材工芸館(津別町)に立ち寄り、さらに下川町やサロマの道の駅の木工展示、阿寒湖コタンの木彫りを見学してきました。

事業内容

木夢館は平成9年に開設した木のおもちゃ館です。

館内では説明員から話を聞き、素材を生かし、違う木地を組み合わせると新しい作品ができるということでした。

木質バイオマス生産組合では、カナダ製の工具を使用した加工場を見学しました。木材工芸館に行き作業機械を実際に操作。糸ノコで切り抜いた木片は持ち帰ることができます。

研修を終えて

参加した会員は木の特徴を見極めることの大切さを感じたといいます。木彫りは木材の美しい木目の部分だけを使うのではなく、制作上「不要



加工作業を体験(津別町)

な部分に魂を入れるかが今後のテーマで、これから安平町で創作おもちゃ作りや木工教室の開催を目指しているとのこと。

安平町では住民と行政が創意工夫する中で協働によるまちづくりを推進する事業を支援しています。その一つが今回の助成事業です。

詳しい内容を知りたい方は、役場まちづくり推進課までお問い合わせください。☎ 2514 (直通)



参加した会員の皆さん